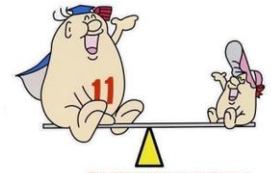
HAKUHO.J.H 人権だより Vol.3

絆 ～きずな～





2026. 6. 11(木)発行

文責　古渕文章

６月の花はアジサイ、バラ、ユリ その花言葉は？





６月は仲夏(ちゅうか)といい、初夏から盛夏に向かう途中の季節を表します。梅雨の湿った空気、曇り空の静けさ、なども、仲夏という言葉は含んでいます。

６月の代表的な花は、アジサイ、バラ、ユリです。それぞれの花言葉は、

アジサイ―家族団らん、しんぼう強い愛情

バラ―愛、美

ユリ―純粋、無垢(むく)



いずれも美しい言葉ですね。愛という言葉はもともと西洋生まれの言葉ですが、これは東洋では仁(じん)という言葉に置きかえられます。仁という言葉はごく単純にいえば、「思いやり」です。

思いやりがある人は、いじめをしません、意地悪もしません、人をバカにしません。なぜなら、想像ができるからです。いじめられたら苦しむ、意地悪をされたら悲しむ、バカにされたら傷つく・・・それが想像できるのです。

みなさんには、仁のこころをいつまでも持ち続けてほしいです。

世界人権宣言ってなに？

４月発行の「絆～きずな～」では、人権とは何かについて説明しました。人権とは、簡単にいうと「だれもが幸せに生きる権利」です。幸せとは、安心・安全という言葉に置きかえてもいいですね。「安心して生きられる」「安全に生きられる」、というと、なぜそんな簡単なことをわざわざ「権利」といういかめしい言葉を使って強調するのだろう？　と思うかもしれません。

ですがかつて、世界中で人々は安全、安心、幸せに生きることが難しかったのです。歴史で習うことですが、近代になるまで、アジアもヨーロッパもアフリカも、奴隷制度、人種差別、男女差別等が当たり前のように行われてきました。それどころか近代になっても２度の世界大戦が起こり、ユダヤ人の虐殺、言論の統制、大量破壊兵器による民間人虐殺・・・あげればきりが無いほど、人の幸せ、安心、安全は遠いものでした。

このような経験から、人権の保障が世界平和の基礎であるという考え方が主流になっていきました。

そして１９４８年１２月１０日、国連パリ総会において、**「すべての人とすべての国が達成すべきこと」として、世界人権宣言が採択されました。**

この宣言は世界各国の憲法(国に対するとりきめ)や法律(国民に対するとりきめ)に取り入れられ、世界各国に強い影響を及ぼしています。

世界人権宣言より　※本文をわかりやすい言葉に変えています

〇すべての人は、いかなる差別も受けることはない。

〇すべての人は、生命、自由、身体の安全を保障される。

〇すべての人は、いかなる場所においても人として認められる。

アンパンマンは至高のヒーロー！

アンパンマンはマンガ家のやなせたかしさんが生み出したヒーローです。このアンパンマンはやなせたかしさんの戦争体験から生まれています。

太平洋戦争中、やなせたかしさんは兵隊として中国に送られ、終戦間際にひどい飢えを経験しました。食べるものがないので、草を食べて空腹をごまかしたそうです。

やなせたかしさんはこう言います。

「本当の正義というのはね、お腹をすかせた人にごはんを食べさせてあげることですよ。」

アンパンマンの主題歌、「アンパンマンのマーチ」(作詞：やなせたかし)の歌詞に、

「なんのために生まれて　なにをして生きるのか」というくだりがあります。

この問いに対し、アンパンマンはこう言っています。

「こまっている人を助けたときに、心があたたかくなって、そのときわかったんだ。僕が何のために生まれてきたのか、何をして生きていくか、何が僕の幸せかって。」

アンパンマンはよくパトロールに出かけます。パトロールの目的は、悪い奴を見つけることではありません。こまっている人に手を貸す、お腹をすかせた人に顔をちぎって助けてあげる(顔をちぎると、力が弱くなるのですが・・・)ことです。

悪い奴をやっつけるだけが、ヒーローではありません。至高のヒーローアンパンマンは、人助けを第一としています。

アンパンマンたいそうという歌も、やなせたかしさんの作詞です。やなせたかしさんは、こう呼びかけています。

「アンパンマンは君さ　　君はやさしいヒーローさ」